

## 腎機能の変動と心血管疾患イベントとの関係に関する検討

慢性腎臓病（chronic kidney disease : CKD）患者における腎機能の低下は、心筋梗塞や狭心症、心不全などの心血管疾患（cardio vascular disease : CVD）の重大な危険因子であることが明らかになっており、心臓と腎臓が互いに影響を及ぼし合う心腎連関のメカニズムにも近年注目が集まっているところである。

さらに欧米の研究結果により、患者における CVD の発症および死亡リスクは、腎機能の状態を表す eGFR 値が低値であることのみならず、eGFR の変動の大きさによっても異なることが示唆されている。しかし、同様の研究事例はまだ少なく、日本をはじめアジアからの報告はいまだ見られていない。

そのため課題研究では、日本における CKD 患者のコホートデータを用いて、日本人 CKD 患者における腎機能の経時的な変動の度合いが CVD 関連イベントの発生と関連が見られるのか、またそのリスクを予見する指標となりうるのかどうかを調べることとした。また、関連が見られた場合にはさらに腎機能の変動要因についても解析することを検討している。